

3 機械的安全性

1 運搬時の注意点

1

前方視界の確保
モニタが折りたためる構造の場合：
必ずモニターアームロック(後述)を掛け前方が見通せる状態で移動してください。
CRTタイプなど前方の視界が悪い場合：
モニタの左右から適宜前方を確認しつつ運搬してください。

移動経路の傾斜(転倒防止)、移動中の振動、衝撃(精密機器の保護)などには十分にご注意ください。

ケーブル処理
プローブケーブルや電源ケーブル等をキャスターに巻き込まないようにご注意ください。



2 モニタの注意点

2

モニタの固定
超音波診断装置の画像モニタは、近年、LCD(液晶)タイプが増え薄型化しました。これに伴い、モニタ固定部がフレキシブルに可動し、利便性の向上を図る製品も登場しました。超音波診断装置を移動させる場合は、可動部が回転する可能性がある為、必ずモニターアームロックを掛けてください。

※移動の際には、システム電源、サーキットブレーカもオフにして電源ケーブル(その他)を壁のコンセントから抜いてください。

モニターアームロックの例



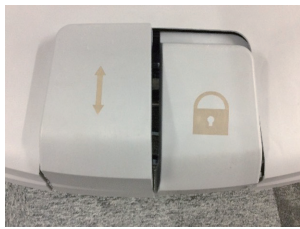
※モニターアーム部には手などはさみやすい箇所がありますのでご注意ください。



3 キャスターロックの注意点

3

固定時にはキャスターロックを確実に掛けてください。検査中に動き出す恐れがあります。



Point

長時間同じ操作をする場合、モニタ位置や椅子の高さを調整し、無理の無い姿勢で検査を行ってください。

4 設置場所

4

排気経路の確保が重要です。壁からは適度な距離をとって設置してください。



※カーテンで仕切った検査室ではカーテンが排気経路を妨げないようにすることも重要です。